

P.70 ◆質問 12番(太田正孝君)

◆12番 (太田正孝君)

(略)

次は、読書の大切さについてであります。

昨年の岡山大安寺高校創立50周年記念式典での元総務大臣の片山善博氏の記念講演において、高校時代での本との出会いが人生を豊かにしてくれたとの話がありました。特に、国語の授業で取り上げられた教材を原書で読むことを勧められてチャレンジすると、随分知らない世界があることを知り、向学心が起きたというのであります。私は、早い時期に読書の楽しさを子供たちに見つけてほしいと思えますし、我が友と呼べる本をたくさんつくっていただきたいと願ってやみませんが、現在、県立高校で**学校図書館**の利活用の充実が図られています。例えば、意欲を引き出すブックトークの授業でございます。この授業では、読書週間中に呼んだ本をクラスの生徒に紹介するという形式で、話すこと、聞くことの活動を授業に取り入れた結果、本の魅力を覚えた生徒がふえているようでございます。また、**学校図書館**に百人一首大会関連コーナーを設けると、百人一首のおもしろさに魅せられて図書館に通う生徒がふえたようでございます。本日は、高校の事例から申し上げましたが、授業と**学校図書館**との連携、さらには県立図書館の蔵書も学校教育の中で活用できるように図って、本と出会うきっかけを提供したならば、本と友達になれる子供たちがふえるのではないのでしょうか。要するに、本好きの子供をふやす授業をしていただければと願ってやみません。

そこで、教育長にお伺いいたします。

本好きの子供たちをふやしていくお考えはお持ちでしょうか。お持ちならば、どうやってふやすお考えなのか、お聞きいたします。

(後略)

P.77 ◎答弁 教育長(竹井千庫君)

◎教育長 (竹井千庫君)

お答えいたします。

読書好きの子供の増加策についてであります。お話のように、早い段階から本に親しむ機会をふやすことが大切であると考えており、本年4月からスタートした第3次岡山県子ども読書活動推進計画では、1カ月に一冊も本を読まない子供の減少を目標に、**学校図書館**協議会等と連携して取り組むこととしております。具体的には、保護者による乳幼児への読み聞かせを促すブックスタート事業に、引き続き全市町村で取り組んでいただくとともに、子供たちが本を紹介する、おもしろ読書事典の小学生版の改訂に加え、中学生版も新たに作成するなど、本の楽しさに触れるきっかけをつくってまいります。また、県立図書館による学校等への蔵書の貸し出しを初め、新たに市町村立図書館と**学校図書館**とのネットワーク構築などの支援も行ってまいりたいと存じます。

以上でございます。